

第74回国立民族学博物館運営会議議事要旨

日時 令和7年3月7日（金）13:30～16:50

場所 国立民族学博物館第1会議室

出席者

（館外） 岡田、木川、後藤、佐々木、高倉、富沢、中谷、水沢の各委員

（館内） 飯田、宇田川、島村、鈴木（紀）、日高、福岡、山中の各委員

（陪席） 吉田館長、須原管理部長、一嶋総務課長、小野研究協力課長、馬場財務課長、
前原企画課長、中山情報課長

（事務局） 小笠総務課課長補佐、河野総務企画係長

議事に先立ち、福岡議長から、本会議は、国立民族学博物館運営会議規則第5条第1項及び第3項による成立要件を満たしている旨の説明があり、総務課長から配付資料の確認があった。

議 事

1. 会議の運営について

（1）館長挨拶

吉田館長から、第74回国立民族学博物館運営会議（令和6年度第4回）開催にあたり、挨拶があった。

（2）前回議事要旨（案）の確認について

福岡議長から、資料1に基づき、第73回国立民族学博物館運営会議（令和6年10月4日開催）の議事要旨（案）の確認が行われ、原案どおり承認された。

2. 協議事項

（1）国立民族学博物館名誉教授の称号授与について

福岡議長から、資料2に基づき、本年3月31日をもって任期満了により退任になる吉田館長及び定年退職予定の教授5名に対する国立民族学博物館名誉教授の称号授与について審議願いたい旨の提案があり、対象の6名が名誉教授の称号授与の資格を満たしていることの説明があった。引き続き、事務局から、関係規程の説明があった後、発案者の各館内委員から、選考資料に基づき、候補者の功績等について詳細な説明があった。

また、福岡議長から、本件に関しては、2月12日（水）開催の部長会議の承認を得て推薦している旨、併せて説明があった。

審議の結果、対象の6名全員について、名誉教授の称号授与が承認された。

（2）教員人事について

福岡議長から、資料3に基づき、人事委員会から提案のあった2件の人事案件（教授への昇任2件）について審議願いたい旨の説明があった。続いて、選考委員会の各主査から選考経過等について説明があり、審議、投票の結果、全件承認された。

なお、研究業績に記載する事項を検討することとなった。

3. 報告事項

（1）人事委員会について

福岡議長から、資料4に基づき、令和7年2月6日ウェブ会議にて開催された人事委員

会について、報告があった。

(2) 共同利用委員会について

宇田川委員から、資料5に基づき、令和6年10月4日開催、令和7年1月10日メール開催、1月31日メール開催された共同利用委員会について、報告があった。

(3) 令和7年度国内客員部門担当教員について

福岡議長から、資料6に基づき、令和7年度国内客員部門担当教員（継続11名）について、報告があった。

(4) 国立民族学博物館の動きについて

1) 国立民族学博物館の最近の動きについて

各委員等から、資料7から10に基づき、以下の報告があった。

- ・ 宇田川委員から、評価及び総研大について
- ・ 山中委員から、入館者数等について
- ・ 福岡議長から、本館の活動状況について

2) 次年度の事業計画について

福岡議長から、資料11に基づき、次の事項について報告があった。

- ・ 共同研究
- ・ 特別研究
- ・ フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文学研究の推進
- ・ 広報企画事業
- ・ 文化資源関連事業
- ・ 情報運営関連事業

3) 国立民族学博物館をとりまく動きについて

吉田館長から、資料12に基づき、次の事項について報告があった。

- ・ 令和6年人事院勧告に伴う給与改定について
- ・ 令和7年度当初予算について
- ・ 厨子甕、骨つぼの返還について
- ・ 人間文化研究機構が刊行する Brill 社人間文化研究機構シリーズ本（“NIHU Studies in the Humanities”）について
- ・ 将来構想検討ワーキングの立上げについて
- ・ 創設50周年記念事業について
- ・ E x p o 2 0 2 5 大阪・関西万博対応について

4. その他

館外委員から寄せられた主な意見は次のとおりであった。

- ・ 半世紀という時間は重みがあり、民博が変わらなかったもの、変えてはならなかったもの、変えていかなければならないものは何だったのか。その中で、ハード（建物）のケアの他、ソフト面についても（例えば物価高騰においついていない制度（旅費規程）等）、限りある予算ではあるが対応する必要がある。
- ・ 創設50周年があり、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）を目前に、多忙な中、多くの事業・プロジェクトを実施し、成果をまとめており、素晴らしいと思う。勇

- 気ある視点での企画もあり、唯一無二の博物館だと改めて感じた。
- ・膨大な資料をどのように維持するのか注視している。予算の関係もある中、どのような工夫をして調査研究の質と普及啓発を進めるのか、期待している。
 - ・ここ数年の名誉教授の称号授与の件数から民博の生まれ変わりの時期がきていると思い、創設50周年が同時期であることに感慨深い思いを抱いている。
 - ・大阪・関西万博と沖縄国際海洋博覧会は浅からぬ縁があるので、これらを起爆剤にしてこれからの民博の50年につなげ、連携することができればと思っている。
 - ・創設50周年記念事業の国際シンポジウムでは博物館をとりまく動き等をテーマに取り込んでおり、具体的な展示の在り方にどう結んでいくのかが次の課題だと思う。来館者数等の数値では把握できない質的な内容の振り返り、企画者の展示の工夫・反響・想いを財産として残していくことができれば良いと思う。
 - ・民博の展示は、知識を与えるのではなく、気楽に世界に入って行って感性を開くようで、民博の持っている資料の素晴らしさを知ることができる。次の50年が始まるので、特別展が楽しみである。
 - ・館長をはじめとする6名の名誉教授称号授与の決定があり、知見や運営方法を継承することと思うが、これからも精力的に進めてほしい。
 - ・論文の発表の仕方、公表の仕方が時代とともに変わってきており、限られた予算の中、試行錯誤しながら進めていただきたい。

以 上